



洋書輸入協会会報

Vol. 30 No. 10 (通巻353号) 1996年 10 月

理事会報告

9月27日(金)

(一)7・8月分収支報告

9月12日(木)開催の総務委員会で審議の7月及び8月分収支について総務委員長の報告を承認した。

(二)総務委員会報告

- イ. 先般開催の理事会で報告の9名の方々に特別委員会の委員を委嘱したところ、全員の快諾を得た。
- ロ. 来年4月実施予定の消費税5%に対する各社の対応例の説明が会員数社より求められているので理事会の考え方を聞きたい。

(三)PW〔9月16日号〕記事の件

PW誌記事の誤りについての謝罪と訂正を求める抗議文を編集長宛に理事長名で出すべきとして斉藤理事より提出されたDraftについて内容を更に検討し、近日中にPW誌社宛郵送することとした。

(四)特別委員会の開催

9月25日(水)第一回の委員会が開かれ中田理事長(代)より、本委員会に対する理事長および理事会の次のような考えが示された。「役員定数、選挙、会員資格、会費等々の規約上の種々の問題点がありまた協会や理事会の在り方が問われている。さらに情報や意見交換の場を求める声強いなど、JBIAは多くの課題を抱えている。

会員であって良かったと誰もが感じるJBIAにすべく、今後の方向性を探って頂きたい。任期は半年乃至一年を考えている。」

この後各委員から今後の会議の進め方等率直な意見が出され次回までに「中・長期の課題」についての考え方を各委員に求めることとして散会した。

(五)退会社の承認

(株)神田教文館より理事会宛に7月末日で退会届けが提出され承認した。退会理由は後藤社長が70歳を迎えたのを機会に会社を解散する。幸い母体会社ともいえる教文館が業務を引き継いでくれることで決断した由である。

(六)協会への寄付

協会設立時より長年の間理事として、業界発展に尽力され100歳の天寿を全うされた故服部正喬氏(前国際書房会長)が生前協会や会員の方々にお世話になったので謝意を表したいとして、現国際書房会長の服部貞夫氏より協会宛10万円の寄付があったことが報告された。理事会として、謹んでお受けすることとした。

(七)(二)口についての回答

消費税5%への対応については広報・渉外委員会で懇談会の開催を企画し、各社の対応例の説明や場合により講師を招いて会員の要望に応えたい旨、中田理事長(代)より回答があった。

(八)1997年度ダイレクトリー

来年度のダイレクトリーにAgent Listの項目を従来通り設けるべきか否かを論議したが委員会での検討に委ねることとした。

目次

理事会報告	1	文化厚生委員会だより	4	洋書輸入協会史(109)	6
食中毒とO-157	2	Database '96 Tokyo	5	出版文化史追憶(10)	7
うちの会社	3	お知らせ	5	広告	8

食中毒と病原性大腸菌 O-157 : 雑感

医学書院 MYW 荒 木 亮 一

毎朝、通勤の途中で出会う小学生に今朝は遭わない、と、つい「O-157」、と思ったりする。好きな生野菜をみて、ハッ、とする。地下鉄の構内や車両内にビニール袋などを見つけると何となく不安がよぎる。悲しいことである。昨年から阪神大震災、サリン事件、トンネル崩壊事故、薬害エイズ、台風の被害等々、天災人災を含めると沢山の悲劇が続いている。この科学が進んだ現在でも避けられないことが多くあり、人間の存在が如何に小さいかを思い知らされるようだ。「医学にはまだ数十年の差があり、今の科学一般のレベルに達した時には生命の秘密も解明されるに違いない」と言われた大学の生物学教授の言葉を思い出す。40年程以前のことである。

「週刊医学界新聞」(医学書院発行)1996年9月23日発行の第2208号が「O-157に関する緊急公開シンポジウム開催」を報じている。厚生省は腸管出血性大腸菌感染症を指定伝染病に位置づけた。日本細菌学会は科学技術庁との共催(厚生省後援)により「腸管出血性大腸菌(いわゆる病原性大腸菌 O-157) ―今何がわかっていて、これから何をすべきか」を Agenda の項目に掲げ、さる9月2日に緊急公開シンポジウムを開催。東京・港区のヤクルトホールにおいて開催され約500名が参加したそう。午前が疫学をはじめとする9題の講演、午後は米国農務省の I. K. Wachsmuth 氏およびワシントン大学の P. L. Tarr 氏の講演、その後に「病原性大腸菌 O-157の流行の制圧に向けて」と題したパネルディスカッションが行われたそうである。5月に岡山県邑久町の小学校で発生してから4ヶ月余り、今新たに岩手県盛岡市の市立小学校で大発生している。

一口に食中毒と言うが、細菌性食中毒の原因となる感染型の細菌には多くの種類がある。サルモネラ菌のような浸入型、生体内毒素型(この中に「O-157」と番号で呼ばれる病原性大腸菌が含まれている)、中間型、そしてボツリヌス菌やブドウ球菌と言った毒素型の菌類に分類されている。更に、下痢を起こす大腸菌としては機構が全く異なった5種類が報告されているが区別ができないため日本ではこれらを「病原性大腸菌」と呼んでいるとか(日本醫事新報 No. 3777 号より)。腸管出血性大腸菌 O-157は Verotoxin (ベロ毒素) 産生型で、死に

いたこともある HUS (溶血性尿毒症症候群) と関連が深く、O-157感染による HUS 患者では女兒に発症が多く認められているそうである。成人が健康保菌者でも発症しない可能性の高いことから O-157の制圧の手掛かりになってくれることを祈りたい。私も幼児時代に赤痢にかかったことがあったと聞かされた。こう言った疫病の抗体があると信じていたが、異なった食中毒の起因菌は沢山あるので安心は出来ない。10年程まえに「ブドウ球菌」の食中毒にかかった。真夜中の3時前に下痢を起こし、その儘立ち上がることも出来なかった。昼食に食した寿司だねの残りの小柱一握りのなかで、6時間の間に菌が大量増殖していたのだろう。夜明けを待ち望みながら目も開けられない程の、あの「キリキリ」と言う間欠性腹痛に身体を「くの字」にして堪えながら「これで“おさらば”かな」などと言ったのを覚えている。救急車のお世話にもならず治癒してみれば、あんな冗談が言えたんだから大したことはなかったのだと思うし、ブドウ球菌での死亡例はないとか。点滴以外の投薬もなく、一日苦しんで検査の結果を待たなければ、診てくれた先生の「ブドウ球菌じゃ痛かったでしょう」の一言だった。「O-157」が出す Vero 毒素は青酸カリに匹敵する毒性を有つそうである。今度の感染者の人達がどれほどの苦しみや恐怖と闘ったのか想像を絶する。食中毒を経験した者の共感、Sympathy だろうか。雑誌類の生々しい報道は読むに堪えない程だ。1000名近い闘病中の子供達や患者の人達に「頑張って」と声をかけてあげたい、そして亡くなられた11名の犠牲者のご冥福を心からお祈りしたい。

今まで大腸菌は腸内の常在菌で(町内の隣組のように)何ら悪戯をしないと考えていたので、驚きである。Stedman's Medical Dictionary や他の医学大辞典を引いてみてもこれらに関する Entries があまり見当たらない。1982年に米国で腸管出血性大腸菌による集団感染が確認され、ハンバーガーが原因とみられて以来、米国ではあまり発症していないので重視されていなかったのだろうか。一方、あまり報道はされていないようだが、毎年かなりの発症と数十名の死亡が確認されていると言う話も聞いた。O-157は牛の腸内で確認されているとの

ことであるし、食肉の消費量の多い米国では後者の可能性が高いと考えるのは間違いだろうか。何十年前に見たニューヨークでの光景を思い出した。スーパーマーケットの売り場で、主婦の中に生の挽き肉を指先にとって味をみてから購入している姿である。

日本では1984年に初めての患者が確認されてから、1990年、1992年、1993年、1994年と幼稚園、小学校、保育園、小学校で、1992年の12名（保育園）を除き、それぞれ319名（内2名死亡）、142名、30名、245名と大発症をみてきた。1990年の浦和の悲劇が繰り返されてしまった。“The danger past and God forgotten”（喉元過ぎれば熱さ忘れる）であって論外である。

厚生省は9月26日に、病原性大腸菌「O-157」による堺市の集団食中毒の原因が「カイワレ大根である可能性が最も高い」との最終報告を出した。なんとも納得し難いと「日本カイワレ協会」が反発するのも当然だと思った人達も多いことだろう。実験結果で菌が根から吸収さ

れ茎にまで達し、その状態を保持すると急速に増殖すると言う。その後の報告では、根が吸い込むのではなく、毛細管現象で茎の外側を上がって行くのだとか。自然環境における状態とはあまりにかけ離れているように素人目にはみえて仕方がない。山が好きで夏の尾根歩きをした頃には、沢の水を飲むのが楽しみで、大きなポリタンクをザックに潜ませて行ったものだった。生産会社の農園でこの種の大腸菌が1週間や10日で大発生したり全く痕跡も残さず消えたりするのだろうか。発生現場での菌の存在を確認できない不思議もある。人類による環境破壊の結果かも知れない。

7月から9月は食中毒の多い季節であるが、今や常々から手をよく洗う習慣を身に付け、生ものは避け、食物、中でも肉類は充分加熱すること、特に子供と高齢者に重症患者が多いことを忘れず、予防に配慮すると言う自己防衛だけが感染防止、即ち中毒を起こさない方法なのかも知れない。

以上

うちの会社

日経 BP 販売株式会社

日経 BP 販売(株)は社名が示す通り、日経 BP 社が発行する「日経ビジネス」、「日経パソコン」など専門雑誌を法人向けに販売する目的で1973年に発足しました。

当初は日本経済新聞社と米国マグローヒル社と合併で日経マグローヒル社が創業した関係から、日経マグローヒル販売と呼称していましたが、87年夏の合併解消に対応して、現行社名に改め今日に至っています。

当社の洋書部門は米国マグローヒル社との提携関係から当初 Business Week など同社の予約購読制の専門誌を中心に営業を開始しました。

「日経ビジネス」が Business Week と「日経エレクトロニクス」が Electronics と日経アーキテクチャが Engineering News Record 及び Architectural Record と翻訳権を特約、提携して発刊したいきさつから、各誌の国内購読者の方より、翻訳提携誌も購読したいという要望が数多く寄せられたことが、洋書部

門拡充の背景にあります。

82年に Business Week International の国内総代理店契約を結んで業務の体制を整えたほか、これも米国マグローヒル社の商品であるコンピュータ情報ファイルの DATAPRO も総代理店契約で取り扱い商品に加えています。

90年代に入って米国の金融情報専門誌である Institutional Investor、有力なアジア経済情報誌である Far Eastern Economic REVIEW など米国マグローヒル社以外の予約購読制有力情報誌も加えて業務内容の整備を進めているところです。

日本経済がかってない変革期を迎えた昨今ですが、先端専門情報のニーズは今後とも、高まりこそすれ衰えることはないと思われます。

海外専門誌の取り扱いを通じて各界専門家の皆様方の情報ニーズにさらに応じていければと念じています。

(井上 宏)

釣り同好会・“アジ釣り”

晴れ、時々曇り、南東の風、風速7m～9m、雨の確率0%、絶好の釣り日和。そんな天気予報の10月5日、恒例の洋書輸入協会釣り大会が行われました。今回の獲物は「アジ」、場所は走水沖。私が集合時間の7時45分ギリギリに到着した頃には、自分を含めた参加者15名のほとんどがすでに準備も終わり、出船を今か今かと待っているようでした。

しかしみんなの顔は少し曇りがちなのです。予報の割には雲の多い天気を気づかってイヤ、でもこれも朝のうちだけだろう、そのうち曇もどこかへ行ってしまおう、みんなそう思いながら船に乗り込み「イザ出陣」。

各々抽選で決められた所定の場所に付き準備をしながら約20分。今回は初心者が5人。船長の「みなさんやってください」という号令のもと一斉に釣り出しました。それから5分～10分後には周りではアジが釣れ出し、私の隣の初心者の人、そして後ろ手はこれまた初めて釣りをするという女性2人組も釣れだし、ヨシ今日は全員お土産をたくさん持って帰れるぞ、そんな気持ちでした。（ここまでは順調）そう思っていたのも束の間、段々天気が怪しくなって雲がなくなるところか、遠くでは雷が鳴りだし、波は高くなってくるし、あの素晴らしい天気予報はどこへ行ってしまったのでしょうか。

そして、釣り初めてから約2時間後、ついに大雨と荒

波と雷が我々を襲ったのです。それからはもう散々です。雨の確率0%を信じた私はカッパの用意もせず、前日の寝不足がたたって船酔い寸前。とうとう船室で休憩となっていました。そこにはもう5人の先客が居ました。

そうこうしているうち、11時すぎ幹事の小松さんの提案により中止とあいなった次第です。

全員道具を片付け、港に向かい、そして船宿で表彰式が始まりました。

大変な大会でしたが、こんな悪天候の中でも宮沢賢治みたい人はいるものです。（雨ニモマケズ風ニモマケズ、ナンチャッテ）

優勝は東亜ブックの内田さん18匹、大洋交易の中村さんと広瀬さんが17匹・16匹の2位と3位。太陽図書貿易の小松さんが13匹の4位。ゴルフに行くような服装で半分以上船室にいた東亜ブックの鶴さんが何と10匹の5位。凄い人達ですね！（私はこれからこの方々を洋書輸入協会の宮沢賢治と呼ぶことにしました）そして釣り歴10年の私はなんと初めて釣りをした人にも負け3匹の最下位でした。

今回はみなさん本当にお疲れ様でした。初めて参加された数少ない女性の方々、これに懲りず次回も是非ご参加下さい。（大洋交易 堀本 記）



Database '96 Tokyo 報告

ユサコ株式会社 山 川 真 一

去る、平成8年9月11日から13日まで、東京、池袋のサンシャインシティで Database '96 Tokyo が開催されました。今回は3日間とも天候に恵まれたため、例年以上の来場者が期待されました。

しかし、実際の来場者は、運営事務局の発表によりますと、昨年より3%減の34,014名(昨年は35,175名)にとどまりました。これにはいくつかの理由が考えられます。まず第一に全く同時期に横浜パシフィコにて、第一回インターネットエキスポが開催されたこと、第二に Database Tokyo 自身の集客力が低下したことです。このような状況から判断しますと Database Tokyo というイベント自体が過渡期に差し掛かっているように思われます。

今年の特徴としては、まず、各分野ごとの特別ゾーンコーナーが設けられたことです。具体的にはデータベースシステム構築ゾーン、マッピングデータベースゾーン、特許情報データベースゾーンそしてインターネットコーナーがありました。これは分野別のゾーンを設けることにより、来場者の方を目的のブースに速やかに導くことを目的としたものです。一般に Database Tokyo のブースの配列は、特に決まりはなく、一般消費者向けの商品を扱う会社のブースの隣に、特定専門分野の商品のブースが並ぶということが多々見られます。これは来場者にとって非常に見にくい配列でしょう。医学の学会大会等における展示などですと、書籍コーナー、機器コーナーと分かれており、来場者の方々は瞬時に、どこへ行けば見たいものが見れるかが分かるようになって

ています。今回のように良いアイディアはどんどん取り入れて欲しいものです。

さて、展示の内容についてですが、やはりインターネット関連の商品が多く見られました。インターネット・サーバを介したデータベースの提供、そして検索端末は WWW ブラウザといったパターンが多く見られました。そのことから、データの提供媒体が CD-ROM からインターネットへ移りつつあることがはっきりと分かります。

しかし、一方では商用オンラインも安定した市場を押さえているようです。セキュリティ等の問題から、インターネットよりも商用オンラインの方が信用できるという意見もあり、一時はインターネットに人気を取られていた商用オンラインも再認識されてきているようです。

沢山の情報が無料で入手できる、という評判でインターネットは全世界に広まりましたが、インフラの整備、継続的な情報の提供などを考えますと、いつまでも無料というわけにはいかないと思います。やはり価値ある情報は有料であるということは再認識すべきであると思います。この Database Tokyo も、データベースという形のない情報を価値あるものとして、市場に浸透させるために始まったもので、はやりツールだけを追うのではなく、価値ある情報を提供できるように、利用者の意識の成長と、それを提供する産業を育成するために、Database Tokyo が実際にニーズに応えていくことを期待します。

お知らせ

代表者の交代

- ◎ 株式会社東光堂書店の川越正博氏は本年9月末日を以て代表取締役社長を辞任され10月1日より真野生道氏が新社長に就任された。
- ◎ ロングマンジャパン株式会社のポール・ラスト氏は本年10月末日を以て代表取締役を辞任され、11月1日よりドウギー・カメロン氏が替わって代表取締役に就任する。

訂 正

前月号(9月号)に下記の通り一部誤植がありましたので訂正します。

4 ページ

誤: 日販アイ・ピー・エス株式会社

正: 日販アイ・ピー・エス株式会社

5 ページ写真中央

誤: 日本出版貿易 渡辺

正: 日本出版貿易 村山

洋書輸入協会史 (109)

洋書輸入協会顧問 相 良 廣 明

129 あとがき

洋書輸入協会史は、先回の協会史(108)の第128章でひと区切りがついたので、ひとまず終了することとした。

思い返せば、昭和60(1985)年9月号を協会史の第1回とし、昭和16(1941)年の海外出版物輸入同業会の成立から書きはじめ、この第109回の昭和42年(1967)をもって終ることとなった。何故昭和42年で終るのかと言えば、それは昭和42年の半ばからは、洋書輸入協会の公式記録が残っているからである。

昭和41(1966)年々末に、協会として初めて専任事務長の雇傭が決り、寺久保氏の採用が内定した。また翌昭和42(1967)年の7月には、協会発足以来初めて協会専用の事務所を持つことが出来た。事務長の専任と専用事務所の設置とは、理事会議事録を作り、JBIA 発の各種書類を起案し会員に発送する人手と共に、必要書類をファイルし保管するスペースを持つことを意味する。

それまでは丸善の田辺氏が、丸善の洋書仕入課長を勤めながら、自分の机の上で協会の事務を処理されていた。勿論田辺氏周辺の方々の協力があつたからこそこの仕事が出来たのであるが、協会関係の書類を収納するスペースは無かった。田辺氏時代の書類は、昭和21(1946)年以來の理事会議事録の大学ノートと、JBIA 発や規約、入会・退会届、関西支部や各会員との往復書簡などの主なものを、一年毎に無雑作に大型封筒に入れてあるものだけが保存されている。

理事会議事録のノートは、田辺氏があまりに達筆であることと、理事会をやりながらの走り書きであるために、読解が困難である。大型封筒に入れてある書類は、戦後のものであるためにいわゆる泉貨紙かざら紙で、最早ボロボロになりかけている。

昭和42(1967)年の5月から洋書輸入協会々報が、月一回のペースで発行され始めた。これは全会員の許に配付されており、理事会記事や委員会報告、行事その他の必要なことは、簡単にはあるが時には写真を添えて掲載され、公式記録として残されている。

以上のような経緯で、私は昭和16(1941)年の協会創設以来から昭和42(1967)年までの間の洋書輸入協会史は、早く誰かが記録しておかないと、まず第一に紙がボ

ロボロになり、いずれ失われてしまうという危惧感を抱いた。私はたまたま大学の専攻が国史学科であり、ある大学の二部で文化史の時間講師をしていたので歴史に興味がある。また昭和32(1957)年頃から洋書輸入協会の活動に深く関与してきたために、協会関係の資料が手許に残っている。そこで65歳で紀伊國屋書店を退職し、いささか時間が出来たのを機会に、これらの資料を活用して洋書輸入協会史を書くことを思い立った。もしこれを書くのであれば、直ちに着手しないと資料の散逸、損壊は免れない。また肝心の私自身の体力がこれから衰えるばかり。そしてこのような酔興な仕事を、私以外の誰がやるとも思えなかった。

書き始めてみると、業界の先達が官庁との折衝を始めあらゆる面で随分苦労しておられたことも分かったし、また私と同世代や後輩達が苦心して仕事を進めていることも良く分る。更に日本を取り巻く世界の情勢が、我々の業界に大きな影響を及ぼしていることも痛感した。それらを少しでも書き残しておきたいと思い、資料を掘り返しているうちに、ついつい詳しく書き過ぎてしまう傾向があった。また出来るだけ協会の公式記録としての価値を持たせたいために、記事の出所を一つ明記するように努めたことも、この協会史の物語性を減少させ、いささか退屈なものにしたのかもしれない。

しかし、足掛け12年およそ46万字に及ぶ分量を書きあげたということは、これにスペースを割き続けてきた会報委員会、ひいては理事会の方々に、また絶えず励まして頂いた協会員の読者の方々に後押しをして頂いたおかげであるということを、今こそ深い感慨をもって感謝している。残念なことは、この協会史を読んで頂きたかった多くの方々が、既に故人となっておられることである。

今後は、協会々報という公式記録が存在する以降の協会史の傍証として、例えば大学紛争時の業界の対応、ニクソン・ショックと変動相場制への移行、第一回の公取立入調査の経緯など、主な出来事をトピック的に書いてみようかという気もしているが、何分にも一昨秋以来体調を崩しているの、先行きは全く分からない。

以上をもって協会史を一旦終了する御挨拶と致します。御愛読有難うございました。(終り)

英語辞書の歴史—ジョンソン・ウェブスター・OED—

丸善・本の図書館 鈴木 陽 二

◆ジョンソン辞書誕生の背景

「英語辞書の歴史の中で真に画期的な辞書といえば、ジョンソンの辞書と『オックスフォード英語辞典』の二つしかないと言ってよい」と小島義郎先生は記している(『英語辞書物語』上)。以前本誌に連載した「英語辞書の歴史」に続ける形で、現代の英語辞書の原点となった三つの辞書について調べてみることにしよう。

16世紀末ごろのヨーロッパでは自国の言語を保護・純化・固定していこうという思潮が高まって、その最良の方法として言語をアカデミー(学士院)に管理させるという考えが生まれた。1582年にイタリアで「アカデミア・デラ・クルスカ」が設立され、事業として『アカデミア・デラ・クルスカ語彙集成』(1612)が編纂された。またフランスでは、時の宰相リシュリューの保護で1635年に「アカデミー・フランセーズ」が発足した。そして、1939年に辞書編纂に着手し、膨大な人材をつぎ込んで55年の歳月を費やし、1694年『アカデミー・フランセーズ辞典』フォリオ版全2巻を上梓した。

一方、イギリスにおける「王立学士院」の創立は時代が少し下って1662年にチャールズ2世の勅許を得て正式に発足したのであったが、イギリスの場合はイタリアやフランスと異なり、自然科学の発展を目的にした団体で“The Royal Society of London for Improving Natual Knowledge”というのが正式の名称である。創立当初から院内に「英語改良委員会」を設けたように英語に対する関心は強く、英語アカデミー創設へ向けて歩みだしたのであった。しかし、この時代のイギリスは、1664年にロンドンにペストが蔓延して学士院の活動が中断したこと、1665~67年の第2次オランダ・イギリス戦争、1666年のロンドン大火など相次ぐ災難に遭遇したことで、英語改良論も下火にならざるを得なかった。

アカデミー・フランセーズの辞書が完成したことは、イギリスの知識層に自国の言語研究の後進性を痛感させることになったようであるが、同時に、18世紀は英語が完熟を迎えた時代であって、文学者・詩人・評論家たち自身がその時代の英語を純化・固定する必要性を強く感じていたのであった。英語改良の動きが下火になったも

の、英語改良委員会の一員であったジョン・ドライデンは終生英語アカデミーの必要性を主張していたし、また、ダニエル・デフォーは国語としての英語の改革を進める委員会の設立を提議した。ジョナサン・スウィフトに至っては、スティールの『タトラー』(1709~1711 文芸雑誌)に英語の腐敗堕落論を掲載して批判し、さらに1712年には「英語の適正化、改良、固定のための提案」という公開質問状を大蔵大臣ロバート・ハーレイ・オックスフォード伯爵に宛て、英語アカデミー設立の必要性を提議した。この提議は広く賛同を得たが、アン女王の死去によるオックスフォード伯爵の失墜で実現しなかった。また『タトラー』廃刊の後を受けて1711年に創刊された『スペクタイター』はやはりこの時代の代表的な文芸雑誌であったが、編集主幹のジョセフ・アディソンは同誌上に英語アカデミー設立の必要性を論じている。彼の場合は自ら英語辞書編纂の計画を持っていて、実際に文例を収集したりしていたという。

アレキサンダー・ポープはいうまでもなくイギリスの優れた詩人であるが、同時に大変企画の才があったようで、彼は言語の変化が詩人の生命に与える影響を嘆き、彼自身辞書の編纂を計画した。そのため、文例を引用すべき作家18人、詩人9人を選定したが、このポープの辞書の企画と文例引用のための人物の確定は後年ジョンソンが辞書編纂に生かすことになった。

このように、時代は新しい英語辞書の出現が待たれる状況となり、その具体的な動きが出版社の間で見られるようになった。ロバート・ドッズリーは、1735年に書店を開業してポープ、ジョンソン、ウォルポールなどの著作を刊行し、18世紀中期の英国文芸界に影響力のあった人物であるが、現在もロングマン社から刊行が続いている時事年鑑“Annual Register”を1758に創刊(1788年までエドモンド・パークが編集)したことで知られている。そして、実際にジョンソンに英語辞書編纂の提案をしたのは彼で、完成までに要すると思われた3年間の財政的な援助を申し出た。しかし、ジョンソンが辞書編纂に踏み切るまでにはまだ多少の紆余曲折があったようで、この辺の経緯は次回に見てみることにしたい。

1995年9月の放映開始の夜
ロンドンの街から人影が消えた!



BBC EDUCATION & TRAINING

BBC
VIDEO
LIBRARY

最新刊のご案内

BBC WORLDWIDE
TELEVISION

ビデオ
全6巻

各巻50分
オリジナル英語音声版
英文スクリプト付

¥210,000

税別



ジェイン・オースティン

ジェイン・オースティン
不朽の名作

「自負と偏見」

19世紀のイギリス文学を代表する作家ジェイン・オースティンの名作「自負と偏見」を、脚本家アンドルー・ディヴィスが新鮮な脚色でテレビドラマ化し、イギリスでは爆発的大ヒット!!

ディケンズ、ブロンテ、ジョージ・エリオット等の代表作も好評発売中。

●お問い合わせは下記へ

GMS

BBC(英国放送協会)ワールドワイド社 日本総代理店

株式会社 グローバルメディア・システムズ

〒105 東京都港区浜松町2丁目5番5号 松井ビル

(営業本部) TEL.03-3433-4375
FAX.03-3437-1778

1996年10月

通巻第353号

洋書輸入協会

編集者 神田 俊二

〒103 東京都中央区日本橋1-21-4 千代田会館 5階20号室

☎(03) 3271-6901 FAX.(03) 3271-6920

印刷所—藤本綜合印刷株式会社